

大 毛 沖 遺 跡

調査の経過 大毛沖遺跡は、一宮市北西部から葉栗郡木曽川町にかけて所在し、木曽川によって形成された標高9m前後の自然堤防および後背湿地に広がり認められる古代から中世の遺跡である。

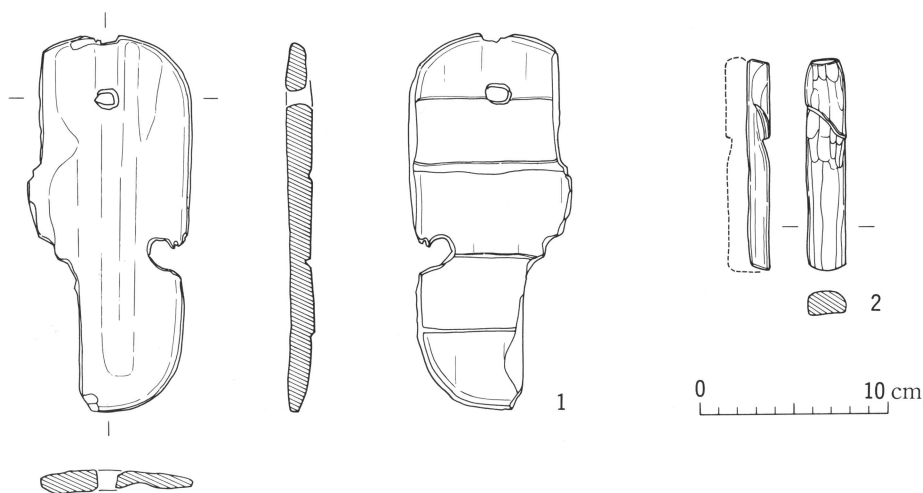
発掘調査は、東海北陸自動車道の建設に伴うもので、日本道路公団および愛知県土木部より愛知県教育委員会を通した委託事業として平成5年度より実施しており、平成5年度は17,112㎡、平成6年度は20,100㎡、の調査が行われた。今年度は調査面積の残り1ヶ所で国道22号線の東側の95A区400㎡を発掘調査した。

調査の概要 今年度の調査区は、大毛沖遺跡の北端部、昨年度の調査区94H区の北西端に位置する。大毛池田遺跡に一番近い調査区でもある。今年度の調査において、上層では中世後半から戦国にかけての遺構群（溝3条、井戸1基）と遺物が、下層では古墳時代前期の水田跡を検出した。

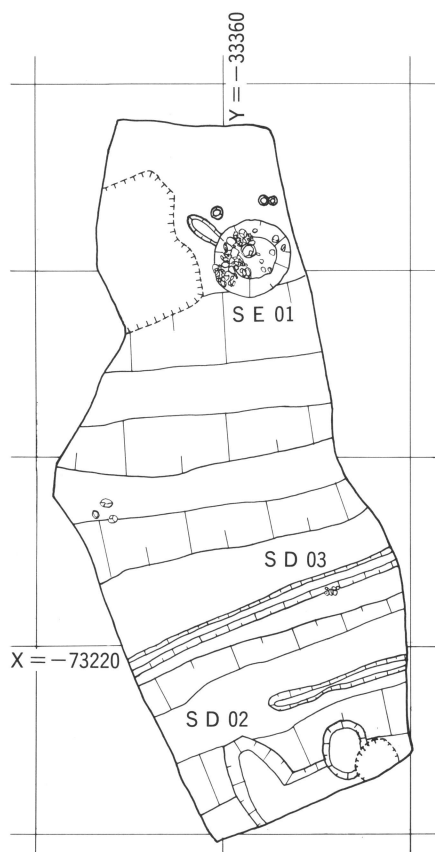
中世後半から戦国期にかけての遺構を検出したことにより、この時期の遺構が95A区まで広がることを確認したが、今回の調査で検出した溝（SD01、02）の規模から、大毛池田遺跡の居館跡との関係が注目される。SD02は調査区の南側を南西方向に斜めに横切っており、最大幅3m80cmを測る。埋土の上層では円礫が多く、円礫に混じり中世から戦国期にかけての遺物が出土した。下層からは箸、下駄、陽物、底板、等の木製品が出土した。下駄(1)は、一木から台部と歯部を削る一木下駄で、連歯下駄と呼ばれており一部に焦げた痕があり、下駄が廃棄され燃やされたことを示している。この他に端部が焦げた小さな木片が数点出土した。陽物(2)は半裁されたものが出土している。

また、古墳時代前期の水田跡を95A区の南半部で検出したことにより、大毛池田遺跡に見られる古墳時代前期の水田跡が大毛沖遺跡までひろがっていたことを示すことにもなった。

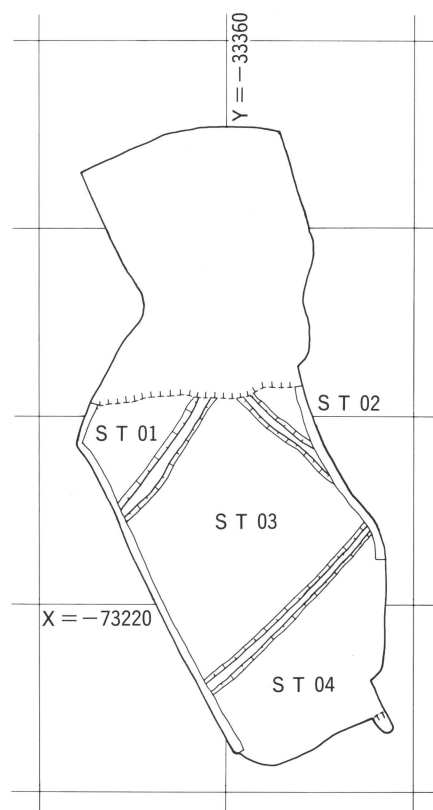
(小澤一弘)



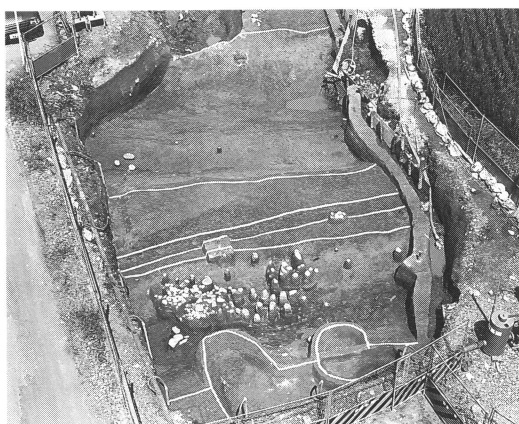
SD02出土木製品実測図



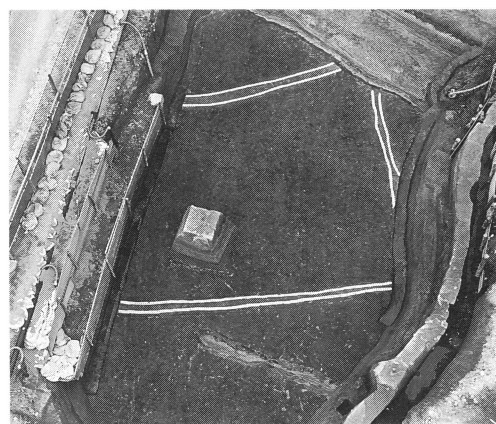
95 A区上面遺構全体図 (1 : 200)



95 A区下面遺構全体図 (1 : 200)



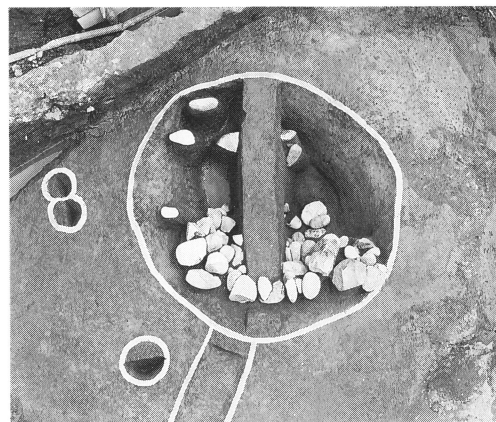
95 A区上面全景 南より



95 A区下面全景 南より



S D 02木製品出土状況



S E 01全景